

白ネギ面積拡大にともなう効率的出荷体制の構築

境港市

足立治

1 はじめに

私は、新規就農者として7年目を迎えるが、境港市では、若い新規就農者が増えてきており、高齢者がリタイヤする中、新たな法人が農地を求めて面積拡大を進めてきている。私は、そうした新規就農者や法人の刺激を受け、自分も効率的な白ネギ生産を念頭に置きながら、面積拡大をして行こうと考えている。

最近では、自然災害（台風、長雨、高温等）が多く、その対策や技術的にも改善が必要で、周年出荷に向けた効率的な作付けを行っていくことが、反収アップも含め必要であると感じているし、省力化に向けた取り組みも必要であると思っている。今収穫作業に手間取っており、収穫機を導入し、収穫時間の短縮を行なう事で栽培管理をより充実させ、品質の向上、単収アップを図って行きたい。

2 現状

(1) 機械・施設等装備

機械 施設	台数	詳細	導入年
管理機			
トラクター			
フロントローダー			
ねぎ移植機			
ラジコン動噴			
フレールモア			
ビニールハウス			
ねぎ根葉切機			
軽トラック			
作業場			

(2) 作付面積

29年度	作付面積	出荷数量	備考	30年度	作付面積
春ねぎ	45a	3090 ケース	15a すき込み	春ねぎ	35a
夏ねぎ	50a	3417 ケース	15a 夏腐れ	夏ねぎ	60a
秋冬ねぎ	60a	6220 ケース		秋冬ねぎ	70a

(3) 労力

	圃場管理	調整作業	農業従事日数	年齢	備考
本人	全般	全般	330		
臨時雇用A氏	一部管理、収穫	全般	262		
臨時雇用B氏	一部管理、収穫	全般	235		
臨時雇用C氏	一部管理、収穫	全般	129		

3 課題

(1) 収穫時の作業効率が悪い。

現在、収穫作業は、1日約2aが限界である。1ヶ月で収穫できる期間は、気候条件により大きく左右され予定どおりにはかどらない事が多々ある。また一番時間と労力を取られる作業のため、他の作業時間に影響を与えることも大きい。

そのためもっとも規模拡大した場合に約50a分が収穫できない可能性がある。収穫作業は作業全般の中でも一番の重労働となっている。

また、今まで面積が増えるに従って懸念されるのが身体的な疲労（腰痛や腕の痛み等）である。

(2) 栽培技術

私の周りは排水不良地も若干あり、排水対策も必要となっている。さらに近年増え続けている黒腐菌核病対策、春の飛砂対策、夏場の腐れ対策などが問題となっており、これらの問題が収量アップの妨げとなっているので、関係機関のJAや普及所と連携しながら対策を練っていききたいと思っている。

(3) 新規就農支援

私は新規就農者のときから今日まで、近隣のベテラン農家に助けられてきた。今境港では、アグリスタート研修生をはじめ、法人勤めから独立就農に向かう若者も多く、特に境港では白ネギの若手で「境港市次世代農家の会NEXT」を結成し、自主勉強会を始めるなど様々な取り組みを行ってきている。私の近隣でも白ねぎの新規就農者がおり、必要な場面では、栽培技術の支援をしていききたいと思っている。

4 改善策

(1) 省力化の改善

収穫作業は、非常に時間を要し、肉体的疲労も多大なものがある。そのため全自動収穫機を導入し、今後面積拡大に伴う出荷数量の増加に対応した安定した出荷を目指して行きたい。また肉体的疲労を少しでも和らげ、効率的な収穫を行なうことによりその他の作業の効率化も図り労働時間の短縮を図って行きたい。また、作業場のレイアウトや流れなども、関係機関の協力を得ながら、改善して行きたい。

(2) 技術対策

JA や普及所の現地巡回の参加に積極的に参加していきたいと思っている。
連作障害の対策として緑肥を活用し作付地のローテーションに努め、農地の整地を行い畑の段差解消に努め、排水路への水の流れを改善し水害による被害の軽減に努める。

(3) 夏場の腐れ対策、台風対策(砂嵐)、高温対策 1

夏場の適期に収穫に努め、台風及び春の飛砂対策として風よけにソルゴーや麦を防風対策に活用して行きたい。

(4) 市内の新規就農者の支援

時間があれば、新規就農者のほ場も周り、技術的支援を行い、経営的な面でも支援していきたいと思っている。

(5) 近隣の農家の臨時雇用

今後面積拡大に伴って、雇用が必要であると思っており、近隣の方を積極的に誘いながら、臨時雇用を図って行きたい。

(6) 作付面積と収穫数量(ケース)の現状と目標

	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
秋冬ネギ	30a	30a	25a	25a	30a	32a	34a
1月	853 ケース	1043 ケース	735 ケース	1300 ケース	1500 ケース	1600 ケース	1700 ケース
2月	1265 ケース	1262 ケース	606 ケース	1200 ケース	1500 ケース	1600 ケース	1700 ケース
3月	560 ケース	612 ケース	670 ケース				
春ネギ	45a	45a	35a	45a	50a	55a	55a
3月	803 ケース	802 ケース	390 ケース	1500 ケース	1700 ケース	1900 ケース	1900 ケース
4月	1028 ケース	1413 ケース	1300 ケース	1500 ケース	1700 ケース	1900 ケース	1900 ケース
5月	785 ケース	882 ケース	1300 ケース	1500 ケース	1600 ケース	1700 ケース	1700 ケース
6月	257 ケース						
夏ネギ	50a	50a	60a	60a	65a	65a	70a
6月	686 ケース	1327 ケース	1400 ケース	1400 ケース	1400 ケース	1400 ケース	1500 ケース
7月	1160 ケース	803 ケース	1400 ケース	1400 ケース	1400 ケース	1400 ケース	1500 ケース
8月	850 ケース	545 ケース	1000 ケース	1000 ケース	1000 ケース	1000 ケース	1100 ケース
9月	557 ケース	657 ケース	1000 ケース	1000 ケース	1400 ケース	1400 ケース	1500 ケース
10月	347 ケース	571 ケース					
秋冬ネギ	30a	30a	45a	45a	45a	48a	51a
10月	715 ケース	403 ケース	1500 ケース	1500 ケース	1500 ケース	1600 ケース	1700 ケース
11月	1100 ケース	1005 ケース	1500 ケース	1500 ケース	1500 ケース	1600 ケース	1700 ケース

12月	1394 ケース	970 ケース	1500 ケース	1500 ケース	1500 ケース	1600 ケース	1700 ケース
-----	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------

(7) 耕作地の現状と計画

	H29	H30	H31	H32	H33	H34
作付面積	155a	165a	175a	190a	200a	210a
緑肥等休閑地	140a	150a	140a	125a	115a	105a
合計	295a	315a	315a	315a	315a	315a
所有地	45a	45a	45a	45a	45a	45a
借地	250a	270a	270a	270a	270a	270a

(8) 具体的な取り組みと役割分担

項目	H30	H31	H32	H33	H34	連携機関
経営面積の拡大	○	○	○	○	○	本人・機構・市等
収穫機の導入	◎					県・市・本人
年間労働時間の削減	○	○	○	○	○	本人
新規就農者支援	○	○	○	○	○	JA、県、本人
臨時雇用の拡大			○	○	○	本人

(9) 機械導入計画

事業内容	事業費 (千円)	H30	事業主体・関係機関
ネギ収穫機	4,096	◎	本人・県・市

(10) 機械導入と効果

	用途	効果
ネギ収穫機	白ネギ収穫作業	現状 10a 収穫作業に 4 人で通算 40 時間を要しているが、収穫機によると 10a を 2 人で 1 日で収穫できる。現在 10a の出荷に 20 日から 30 日 (又は平均 25 日) かかっているが、導入により大幅に短縮が見込め (約 12 日から 20 日)、作付面積の拡大、栽培管理の充実及び労働時間の削減を図る事が出来る。

(11) 問題点

収穫機の運搬に 1 t 車がないため、運搬は親しい農家にトラックを借りて移動させる。年 3 回程度。